

・ 科 目 名：骨学・筋学	講義回数： 08/24
講義テーマ： 骨学実習（1） 頭蓋 … 外観	担当者： 教員全員 解剖学（マクロ）
医学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度改訂版（p.41） 学修目標 D-4-1) 構造と機能 ② 頭頸部の構成を説明できる。	
求められる事前学習 LMS の課題 8	
所要時間の目安・（ 20 分 ）	
求められる事後学習 特になし	
所要時間の目安・（ ）	

要点

スケッチの目的は、一見複雑に見える形を要素に分解して把握し、さらにそれらの要素を再構築して、全体像に対する感受性を高めることにある。まずは骨で授業内容を一つ一つ確認しながら、不明な点を可能な限り無くする。何も把握出来ていない対象（骨）をいくら描いても無駄なので、**理解した後で描き始める**。何度も観察することによって、形に慣れ親しみ、最後に、描いた図に解剖用語を書き込むことによって、用語と形との関係にも鋭敏になれる。実物を描くことは、観察だけして理解したのと比べ、何倍もの学習効果が期待できるので、できるだけ時間をかけて実習に臨んでほしい。

骨学実習① 頭蓋外観のスケッチ

実習開始時に描く面を一つ指定する。

※スケッチ開始前に確認すべきこと：

すべての頭蓋骨を確認できたか？

頭蓋内の各種の空間の名称や孔や隙間はわかったか？

観察項目チェックリストを用いて復習をしたか？

※禁止事項：①骨標本の**撮影**、②骨標本の**破損**、③他学生（上級生含む）の**スケッチのコピー**

提出スケッチの評価基準

- 1 プロポーション（全体の形のバランス）が正確であること
 - 2 細部の形質が正確に描かれていること
 - 3 名称が正しく記載されていること（日本語と英語を併記）
 - 4 所見を出来るだけ書き込むこと（図譜や教科書にある標準的な形態との相違点など）
 - 5 実物を描いていないことが明白な場合、評価はD（⇒再提出）
- 以下、詳細はシラバス 18, 20/24 を参照。

予習スケッチ ---- LMS 課題で指定した図を以下の余白に描くこと。